

令和4年度第7回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ 備中地域の未来を切り拓く新規就農者の挑戦！
- 2 日時 令和5年1月27日（金）15:00～16:10
- 3 場所 倉敷市船穂公民館（倉敷市船穂町船穂 1697）
- 4 参加者 県外から移住した備中県民局管内の新規就農者 6名

5 知事挨拶

- ・畑違いの人が別の分野に入ることは悪い事でなく、社会全体にとって良い事だ。ずっとやっていた人が気づかない盲点が見えたりするので面白いと私自身身体感をしているところである。
- ・皆さま方どういう御苦勞があったのか、どういうところがチャンスだと思ったのか、ここは自分の前の仕事の経験が活かしている、などのお話をお伺いしたい。

6 発言内容等

【自己紹介や就農したきっかけ等】

- ・スイートピー生産農家。大学卒業時から将来自分で何かをしたいという思いがあった。会社勤めの経験の延長線上の仕事を考えていたが、ある日書店で巡り合った本から農業に関心を持った。
- ・他県にも相談したが、岡山県の支援（緊急担い手育成制度）が非常に先進的で、また、農業の厳しさも正直に伝えられ信頼できると感じ、岡山での就農を決めた。
- ・スイートピー施設を最大限活かすためのシステムを独自で制作。データを記録に残せば、過去を振り返り未来が見えると考えた。
- ・3名の新規就農者を受け入れた。育成する立場となり、農業の維持発展には、新しい人が魅力を持って入れるようにすることが大事と考える。
- ・ブドウ栽培農家。食用はマスカット・オブ・アレキサンドリアを中心に0.5haとワイン用を1.2ha栽培。昨年、醸造所を立ち上げ、現在、自社醸造している。
- ・前職は料理の仕事。フランスでワインに出会い、畑仕事に魅了されて農家になろうと思った。岡山出身で、マスカットのワインが好きなので、アレキがあるこの土地（倉敷市船穂）に決めた。
- ・今は産地で2番目の生産量。それに加え、耕作放棄地になる寸前の土地を借り受けワインを作っている。ワイン作りがやりたい人も、食用と合わせてやれば生計が成り立つというモデルになれば良いと思う。
- ・なお、2年間の単県事業を使い、手厚い指導を受けたので非常に役に立った。就農した1年目から黒字だった。
- ・モモ栽培農家。前職は造園会社。今年から50aの栽培を予定している。
- ・子供の時から自然好きで、自分の子供が小学校に入るまでに自然の中で暮らしたいと思い、大阪での就農相談会に参加した。

- ・岡山県を選んだ理由は、花がとても綺麗で、果実も食べられる大好物なモモがあったこと、兵庫県出身で隣県ということ、そして、最大の理由は、就農相談会の際の受入農家や受入主体、県の担い手担当の人柄が良かったことだ。
- ・2年間研修し、指導していただいたとおり実践し1年目から出荷できた。
- ・ブドウ栽培農家。約50aで、ピオーネが8割にシャインマスカットが2割という構成。前職が会社員で、漠然と物作りがしたい、経営者になりたいという思いがずっとあった。
- ・40歳手前で転職を考える機会があり色々な仕事を探す中、農業の仕事にとても魅力を感じた。東京の新規就農フェアで井原市のブースがあり、話を聞くうちに、すごく興味がわき、何度も通っているうちにたくさんの人や農地、家も紹介してもらい、就農を決めた。芳井町では、初めて県の就農制度を使って就農したということになる。
- ・ブドウ栽培しながら、冬の農閑期は芳井町にある山成酒造の蔵人として日本酒の仕込みをしている。
- ・トマト栽培農家。高梁市備中町油野という標高500メートル超のところで、桃太郎トマトを34a弱ぐらい作っている。前職は愛知の自動車部品メーカー。
- ・祖父母が農家で、休みによく遊びに行っており、農業が面白そうに感じ、将来農家になりたいと思っていた。
- ・会社勤め後10年ほど経った際、長野、岐阜、三重県など色々県を見たりする中、当時の岡山県名古屋事務所が、新聞の小さなスペースに「岡山県で農業しませんか」という記事を出しており、調べると岡山県が全国で先立ち新規就農者の研修制度をしていたことから、思い切って岡山県に来た。
- ・リンドウ生産農家。15年ほど前に、妻の実家がある新見市に千葉県成田市から移住。妻の実家に農地があり、何か農業したいなと思って農協に相談したところ、ブドウとトマトとリンドウの3つ紹介された中、自己資金でできるのがリンドウであった。
- ・リンドウ専業が1人もいない中、外から大規模かつ専業でリンドウをやりたいという農業未経験者が飛び込んだので、当初はすごく心配された。
- ・当時の普及センターの先生と農協の担当者には、本当に1から100まで教えてもらった。先輩農家の方も一生懸命教えてくださり、今こうやってできている。今では、お盆やお彼岸用の品種を中心に70aでリンドウを栽培している。

【新規就農の苦労やアドバイス、行政に望むこと等】

- ・農業は場所がすごく重要。遊休農地は大抵条件不利地だ。技術、知識、資金がない人が新たに始める際、不利な場所ではハンディがある。
- ・サポートが充実している地域は収益性等が厳しく、逆の地域は入った後の収益性等が高い。そういった情報もオープンにし、色々検討した上で、

参入してもらうことは、ずっとやってく上で重要だ。

- ・収量を上げる、品質を上げる技術のサポートというのを充実してほしい。短期的なサポートより、10年、20年メリットを得られるような長期の視点での支援の取り組みをお願いしたい。すぐの成果は得られないかもしれないが、特に若い参入者にとっては重要だ。
- ・新規就農で、畑が借りられないというのはあると思う。自分は、一軒の年配の方に畑を借りることができ、その方の収穫等は無償で手伝う中で、グループに声を届けてくれ、エース級の農地を借りることができた。
- ・人柄を見られないと、多分畑は出てこない。トータルの人間力を新規就農相談の面接の時に見極めてほしいなとも思う。
- ・新規就農者で組織された組合の組合長として、農地確保の話で市や農業委員に相談に行った際には、地元の者でなく、自分のところから少し離れた農地の話を進めていくことから、話の進め方に苦労した経験がある。
- ・また、研修生の圃場のため、その地区の自治会に、池の水の有償での使用をお願いしたが、使わせてもらえなかった。田植の時期は使わない、草刈もするという条件だったが、断られ寂しかった。
- ・土地はあるが、小さい面積が点々という状況や、所有者と連絡も取れない、家も空き家になって2,30年みたいなところが多く、最近まで人が住んでいてすぐ借りられる家もない。
- ・土地関係は、どうすれば解決できるか悩ましい。誰も答えを持ってない状態で新規就農してもらう感じだ。ギャンブルみたいな感じなので、そこらへんを整備できたらと皆思っている。
- ・私の地域は農業を維持する以前の問題で、地域を維持すること自体が難しいような所だ。この地域の地形がトマトの栽培に適していることで、産地がずっと続いてきたが、ここをこれからも守っていききたいなと常々思っている。
- ・家と土地付きを受入条件として全国でもかなりのところがやっている。ここはハンディがある所だが、美味しいトマトができるというのは、自信を持っており、そこをしっかりとPRして、何とか新しい人を呼び込みたい。
- ・自分が就農した20年前に比べ、県職員や市職員の就農支援が事務的になったと感じる。就農する方も起業と考える方が多く、それに対し、私達も含めてどういうふうに対応したらいいのか、まだ掴みきれてない。我々の課題ではあるが、行政も含めて、そういう考え方を持って新たなアプローチの仕方も考えてほしい。
- ・条件のよい農地もたくさんあるが、貸す側からすると、新規就農者は知らない人になる。このため、私がいつも農家をお願いし、もし、この新規就農者が途中でリタイアしても、私がしっかり元に戻しますと約束して貸してもらっている。地域は担い手が欲しいが、誰でも良いというわけでもなく、その新規就農者の保証人みたいな人が必要になってくる。

【新しいアイデアや豊富等】

- ・法人化し、私のやり方の農業を推進し、将来独立したい人を雇用している。辞めていくが、そういう人を1人でも増やせば、技術とその考え方を持っているので他地域の耕作放棄地が減る。
- ・その人たちが帰ってきた際の委託醸造を、私が受託することで、彼らの利益になればいいという考えでやっている。
- ・ローテーション組んで、シフト制とすることで、休めるようになった。農繁期には一日も休めなかったが、今は子供のため土日のどちらかは家内か私が確実に休むようにしている。
- ・生産技術等のサポートは充実しているが、工業の世界で実践しているような、乾いた雑巾を絞るような合理化、効率化が不足している。そういう点をしっかりアドバイスしてくれるような体制が望まれる。異業種の人をアドバイザーと呼んでも良いのではないか。
- ・桃の産地は日本にたくさんあるが、白桃の産地として岡山県がやはり一番有名。その中でも、「冬桃がたり」は、冬の桃で、糖度も間違いなく高く、香りもすごく良く、日持ちする。
- ・この白桃を組合単位で栽培しているのは、全国でもまだこの備中管内の組合しかない。輸出にも大変向いているので、ぜひPRに力をいれていただければ。
- ・大阪とかに何回か就農相談に行く中、一番感じるのは、就農というより起業したいというニーズが多いこと。そうすると現実の数字の話のこととなり、厳しいなあという声が出て、なかなか就農につながらない。
- ・うちの夏秋トマトは、産地としてかなりマニュアル化が進んでおり、これをもっとアピールしなければならないと感じている。まだまだ改良したり、挑戦できる範囲はすごいあると思っており、これをもっと皆とやっていきたいなということも、新しい人に対してアピールしていきたい。

【知事まとめ】

- ・新規就農は、1つのはっきりした道があるわけではなくて、それぞれどこを目指すか、何を作ろうとするのかで、全然道が違ってくる。しかし、成功される方は、ガッツがあつたり、前職での経験を非常にうまく活かして頑張られたんだなというのがよく分かった。
- ・そういう良い事例があるので、そういったことも参考にしながら、皆さんの後輩を発掘していきたいと思う。これからのますますの御活躍を期待している。